2022 年度 福祉助成金（活動助成）成果報告書

<table>
<tr><td>ふりがな</td><td colspan="2">ひゃくしょくのみらいそうだんじぎょうじっこういいんかい</td></tr>
<tr><td>団体名</td><td colspan="2">「百色の未来相談事業」実行委員会</td></tr>
<tr><td>代表者名</td><td colspan="2">実行委員長　木村浩輔</td></tr>
<tr><td rowspan="4">連絡先</td><td>住所</td><td>岡山市北区野田屋町 2 丁目 10-5</td></tr>
<tr><td>TEL</td><td>086-221-3350</td></tr>
<tr><td>E-mail</td><td>o.h.gakuin@gmail.com</td></tr>
<tr><td>URL</td><td>https://momoiro-no-mirai.com/</td></tr>
<tr><td>設立年（西暦）</td><td colspan="2">2020　　年</td></tr>
<tr><td>助成活動名</td><td colspan="2">百色の未来相談会（進路選択や学習環境に困難を抱える当事者を対象にした相談事業）</td></tr>
<tr><td>助成額</td><td colspan="2">500,000　　円</td></tr>
<tr><td rowspan="2">活動内容</td><td>目的</td><td>当事者が一番強く感じているのが「孤立感」である。自分たちだけが悩み、苦しんでいるように思う。学校教育終了後、どの機関が自分を支援してくれるのかも見当もつかない状態が続く。定期的にまた必要に応じ、無料の相談会を開催し、当事者が次のステップを見つけるための情報の提供や橋渡しなどを行う。無料相談会を広め、新たな人が相談に来やすい環境を作り、孤立感を払拭することが必要である。不登校傾向にある子どもたちは、その後の進路を自分で決めた場合、途中でやめないで頑張っていることが多い。実際に現地に行って見学し、体験しながら、本当に自分に合った進路を考え、自分で決断できるように促していける支援（支援者）が必要である。ここ 2 年間は、コロナの影響で、対面でのさまざまな相談の機会が失われている。しかし、ネット上での相談や、電話を用いての相談では、カバーできない範囲があると実感している。相談者が安心して自分の置かれた状況を説明することのできる場の確保と、話し声以外の身振りや顔色、細かな気づきをスタッフが得ることができるのは、対面で個別に相談にあたるからである。よって、個別での相談会の実施機会の確保を第一とする。</td></tr>
<tr><td>内容</td><td>様々な場所に出向き、年間を通して相談会の開催をする。実際に会って話をして、どのような支援が必要か、どんな支援機関が適しているのか方向性を示す。
支援だけでなく、当事者同士がつながりを持つための当事者会を紹介する。当事者のみではなく、その保護者のケアも重要であるので、親の会とのつながりも提案する。
個別相談会；公民館や市の施設等、コロナの影響で利用が中止となっても、相談会開催を確保できるように工夫し、月 6 回程度のペースで個別相談会の日程を毎月設定、定期的に開催する。相談件数年間 60 件以上を目標とする。
広報活動、情報収集活動を行う。
百色通信の発行、配布（各 1000 部）ホームページの更新。
百色の未来相談事業専用携帯電話の運用。ホームページ、百色通信、パンフレット等で告知。着信の履歴が残るので、24 時間 365 日、対応可能（深夜、休日等着信に対しては、後日対応）

ホームページや百色通信、口コミや支援者、学校等からの紹介で、主に当事者の家族が個別相談の申し込みをホームページ、FAX、メール、電話にて行う。あらかじめ設定した県内各地での個別相談もしくは、その他の相談者、支援者の都合をあわせてスケジュール外での突発での個別相談会の開催。2 回目以降の継続しての相談もあり。その場合、対面ではなくメールや電話での情報のやりとりも行う。</td></tr>
</table>

スクールカウンセラーや親の会の紹介により、公的な機関の規定の中では支援の対象になりづらい状況にいて、困難を抱える当事者やその家族とつながり、学校や教育委員会とのやり取りの助言を行ったり、実際に要望書を考え、提出したりする活動にも取り組む。

成果

本年度も、100 件を超える相談会が行われた。不登校とひきこもりがほとんどであった。これまでと違うのは、継続相談が増えたことである。また、年間を通した継続相談の事例が複数あった。不登校も、小学校高学年・中学生が多かったが、低学年や、高校生の比率も高くなってきた。ひきこもり相談では、就労に向けた相談は数が少なく、生活をどのように立て直すかという内容がほとんどで、もう一度家庭内の人間関係から改善を図るための相談が多くなっている。

年間相談件数	111件

性別	女	男	不明
	39	69	3

主訴	ひきこもり	不登校	発達障害	進路	他
	25	77	2	5	2

内容	就労	生活	学習	進路	居場所	他
	20	61	16	12	2	2

今後の課題と対応策

不登校にしてもひきこもりにしても、一向に減少傾向となりません。いつでもどこでも、気軽に相談でき、保護者・本人が安心できる相談場所や、相談者の存在が不可欠だとかんじている。しかし、そのような環境にはまだまだ遠いと言わざるをえない状況である。最初から何かしらの取り決めがあったり、家族や本人の努力を前提にするような相談では、解決しないだろうと活動を通して強く感じている。相談にきた方が、何も負担に感じなくて、元気をもらえる相談が継続できることを願っている。

写真の提出